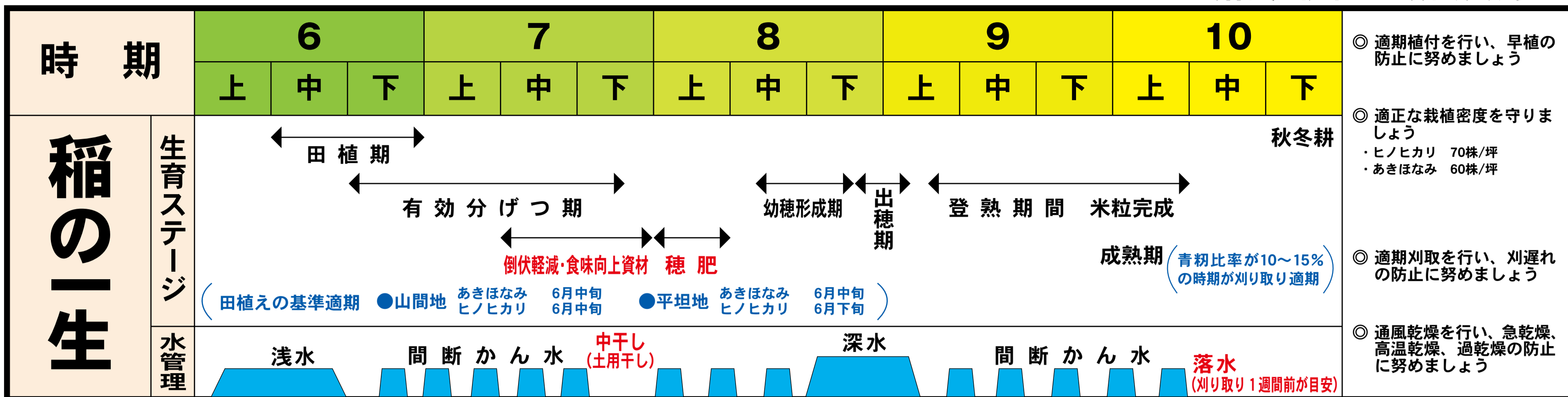


◎病害虫は早期の発見・適期の防除

◎病害虫の発生状況は「県防除所」ホームページアドレス http://www.jpnp.ne.jp/kagoshima

◎農薬の使用基準を守り飛散防止に努めましょう。



時期	6			7			8			9			10														
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下												
生育ステージ	田植期												有効分けつ期			幼穂形成期			出穂期			登熟期間			米粒完成		
水管理	浅水			間断かん水			深水			間断かん水			落水														
病害虫名	コブノメイガ、ウンカ類、いもち病、紋枯病			イネクロカメムシ			葉いもち			ウンカ類			いもち病、稲こじ病			いもち病、紋枯病			カメムシ類、トビイロウンカ			カメムシ類、トビイロウンカ					
農薬名	防人(さきもり)箱粒剤、スクラム箱粒剤			トレボン粉剤DL、スミチオン乳剤			ブラシン粉剤DL			アプロードモンカット			スタークル粉剤DL			スタークル粉剤DL			スタークル粉剤DL			スタークル粉剤DL					
10a当りの散布量	1箱当り 50g			1000倍 1000g			3~4 kg			3~4 kg			3~4 kg			3~4 kg			3 kg			3 kg					

### 農薬安全基準

※回数については、本剤での使用回数です。

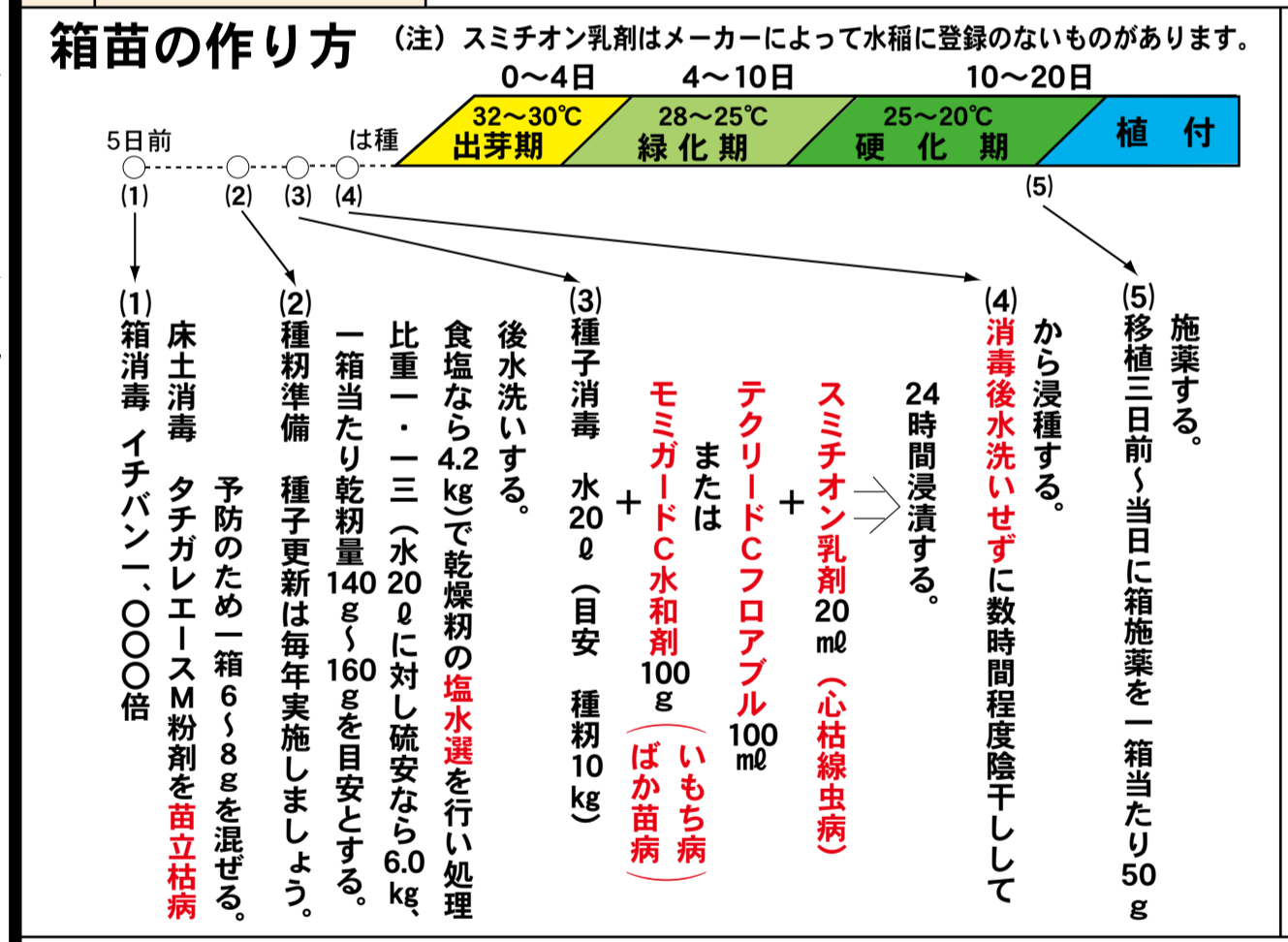
病害虫名	農薬名	使用時期	回数
いもち病	ブラシン粉剤DL	収穫7日前まで	2回以内
	ブラシンフロアブル	同上	
いもち病、紋枯病	コラトップ粒剤5	いもち病に対しては初発10日前～初発時、いもち病に対しては出穂30日前～5日前まで	2回以内
	ダブルカットバリアダフロアブル	穂揃期まで	
紋枯病、ウンカ類、カメムシ類	770-ドモカッタスタークル粉剤DL	収穫14日前まで	3回以内
	ドイツポルドーA	出穂10日前まで	
稲こじ病、紋枯病	モンガリット粒剤	収穫45日前まで	2回以内
	スクミンゴ	移植後(但し、収穫60日前まで)	
イネクロカメムシ(カメムシ類)	スミチオン乳剤	収穫21日前まで	2回以内
	トレボン粉剤DL	収穫7日前まで	
ウンカ類、カメムシ類	スタークル粒剤	収穫7日前まで	3回以内
	スタークル粉剤DL		
ウンカ類、カメムシ類、コブノメイガ	スタークル液剤10	収穫7日前まで	3回以内
	アプロードスタークルゾル		
ウンカ類、カメムシ類、コブノメイガ	MRジョーカー粉剤DL	収穫7日前まで	2回以内
	トレボンEW	収穫14日前まで	
いもち病、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類	ノンブラストレバリアダフロアブルDL	収穫14日前まで	2回以内
	ダブルカットバリアダフロアブル3DL	穂揃期まで	
	ゴウケツモンスター粒剤	出穂5日前まで(但し、収穫45日前まで)	1回

※いもち病耐性菌が発生しやすいことから、アミスター、イモチエース、嵐剤を含む農薬を使用する場合は、箱施薬剤及び本田散布剤のいずれか1回にしましょう。  
※トビイロウンカについては、発生予察情報に基づいた第1世代幼虫の防除が重要です。(7月中旬～下旬)

### 箱施薬の各病害虫に対する効果

剤名	播種同時処理	いもち病	紋枯病	ウンカ類	コブノメイガ
フェルテラゼクサロン箱粒剤	可	-	-	◎	◎
防人箱粒剤	可	○	-	◎	◎
スクラム箱粒剤	可	○	◎	◎	◎

◎効果大 ○効果あり ×効果不足 -登録なし



### 除草剤の使い方 (使用の際は必ずラベルを読んで下さい。)

散布時期	除草剤名	10a当り散布量	雑草名	使用上の注意
移植後 3日~ノビエ2葉期(但し移植後75日前まで)	ミスターホームランLジャンボ	10バック	水田一年生雑草(ヒエ等)	畦畔からバックを投げ込むだけの省力型。(風の強い日には散布しない)バックは水溶性なので、雨などでぬれさせないようにする。
移植後 3日~ノビエ3葉期(但し移植後30日前まで)	エンペラー豆つぶ250	250g	ウリカワ	手やひしゃくを使って畦畔から散布できる省力型。水に5~7cmためて散布する。
移植時~ノビエ2.5葉期(但し移植後30日前まで)	バッチリLX1キロ粒剤	1kg	マンバイ	水は温湯で全面散布し、かけ流しをしない。薬害の恐れがあるので、散布後は補植しない。
移植時~ノビエ2.5葉期(但し移植後30日前まで)	イネキング1キロ粒剤※	1kg	ホタルイ	
移植後5日~ノビエ2.5葉期(但し移植後30日前まで)	ザークD粒剤17(3キロ)	3kg	ミスガヤツリ等	
移植時~ノビエ2.5葉期(但し移植後30日前まで)	サラブレッドKAI1キロ粒剤	1kg	ヒエ、クログワイ等	水を3~5cmためて散布し、3日程度水をためる。
移植後 15日~ノビエ3.5葉期(但し収穫60日前まで)	ハイカット1キロ粒剤	1kg	ヒエ、クログワイ等	水を3~5cmためて散布し、3日程度水をためる。
移植後 15~55日(但し収穫50日前まで)	バサグラン液剤	500ml~700ml	イネ科を除く一年生雑草ウリカワ、ミスガヤツリ等	落水・浅水状態で散布し、3日間は水を入れず、クログワイに効果あり。
移植後 20日~ノビエ6葉期(但し収穫30日前まで)	クリンチャーEW	100ml	ヒエ、クログワイ等	展着剤(ベタリン)を加用し、25~100ℓの水に希釈して使用する。落水または温湯(水を3~5cmためて散布し、4日程度水をためる)で使用する。広葉雑草には効果がありません。
移植後 15日~ノビエ5葉期(但し収穫50日前まで)	クリンチャーバスマE液剤	1,000ml	ヒエ、クログワイ等	展着剤は加用せず(不要)、70~100ℓの水に希釈して使用する。落水状態で散布する。落水状態にできない場合は極浅水で散布する。
移植後 20日(イネ5葉期以降)~ノビエ6葉期(但し収穫30日前まで)	ワイドアタックSC	100ml	ヒエ、クログワイ、ミスガヤツリ等	展着剤は加用せず(不要)、100ℓの水に希釈して使用する。クログワイに効果あり。除草剤散布後雑草の生育は停止するが、効果が確認できるまで3週間程度かかる。落水状態で散布する。落水状態にできない場合は極浅水で散布する。

※イネキング1キロ粒剤は飼料用米品種の一部(みなちから、ミスホチカラ、オオナリ、夢十色などの長粒種系)に使用した場合、白化、枯死などの影響があるので使用できません。

### 標準的施肥例と品種別栽培の留意事項

資材名	10a当り施用量	特 徴
ケイ酸	100kg	鉄分の欠乏による秋落の防止、けい酸の補給による倒伏防止、増収・品質向上に役立ちます。
ケイカル	100kg	茎や葉が丈夫になり病害虫、倒伏、冷害などに強くなります。葉の受光体制が良くなり、登熟歩合が向上します。
粒状鉄入りエンリッチ40	100kg	ヨーリンとケイカル・鉄を4:6で配合しており、根腐れ(秋落)防止、倒伏軽減、施肥の省力化がはかれます。
鉄入り苦土重焼燐	20~40kg	鉄分を含んだりん酸肥料です。根の生育を促進し、秋落防止や鉄欠乏の予防に効果があります。
鉄入り土の恵み	40~60kg	ケイ酸・鉄分を含んでいますので、健全な根を作り、秋落・根腐れを防止します。
シリカサポート1号	20~40kg	高溶出のケイ酸により、倒伏軽減や受光体制、登熟効果を高める効果が期待できます。

肥料名	ヒノヒカリ		あきほなみ	
	10a当り施用量	10a当り施用量	10a当り施用量	10a当り施用量
骨粉入りあいら水稲BBC240	30kg	40kg	40kg	40kg
ヒカリエース2号	35kg	-	-	-
普通期晩生ロング(基肥一発型肥料)	-	50kg	50kg	50kg
こめらく一発・普通期(基肥一発型肥料)	30kg	-	-	-
こめらく一発・晩生用(基肥一発型肥料)	-	30~40kg	30~40kg	30~40kg
倒伏軽減・食味向上資材	20kg	20kg	20kg	20kg
穂肥 BBNKC-77	5~10kg	10~15kg	10~15kg	10~15kg

(注) 鉄分を含む資材については、たばこ作付予定圃場での使用は控えます。  
※標準的施肥例ですので、生育状況に応じた栽培管理を徹底しましょう。

- ◎ 品質向上対策について
    - 登熟時に気温が高いと、「高温障害」により「心白米」等が発生するおそれがあります。そのため、田植えを適期に行い、登熟期の高温を避けるようにしましょう。地域及び水利等の圃場条件に適した品種を選定しましょう。
  - ◎ 抵抗性雑草について
    - 長年、同じ除草剤を使用し効かなくなった雑草が発生している圃場には、抵抗性雑草対策剤として、ミスターホームランLジャンボ・バッチリLX1キロ粒剤・イネキング1キロ粒剤・サラブレッドKAI1キロ粒剤・エンペラー豆つぶ250を使用しましょう。
  - ◎ ウキクサ・藻類の対策について
    - モゲトン粒剤を発生始～発生盛期(収穫45日前まで)10a当り2~3kg散布しましょう。温湯散布し、落水・かけ流しをしないようにしましょう。藻類には、部分的に散布しても効果があります。
  - ◎ スクミンゴ(ジャンボタニシ)の発生圃場では
    - 冬場に耕うんを行い殺菌しましょう。作業は寒い時期が効果的です。卵の塊をできるだけ除去しましょう。
    - 田植え後は浅水にしましょう。
  - ◎ 稲こじ病の発生圃場では
    - 種子伝染するため、発生した水田からは採種しないようにしましょう。常発地帯では窒素肥料の多施用を避けましょう。
    - 出穂20日前までに薬剤防除しましょう。
- ※ 精油は、農薬として登録がとれておらず、魚毒性が高いため、水田でのスクミンゴ防除には使用できません。  
※ 農薬は、容器包装に表示してある使用方法を確認して使用しましょう。

農薬をご購入の際は印鑑をご持参下さい。

◎「売れる米づくり」は、生産フロ  
フィール誌の記帳から!

連絡先  
JA西部地域営農センター TEL.(0995)65-2041  
JA中部地域営農センター TEL.(0995)64-9891  
JA北部地域営農センター TEL.(0995)54-1778  
JA東部地域営農センター TEL.(0995)49-8701  
JA経済部 TEL.(0995)43-7310  
県始良・伊佐地域振興局 TEL.(0995)63-8215